

# ①尿道狭窄症の診断から、防衛医大を受診するまで。

私は2011年1月に長野県のスキー場に2人スノーボードで滑走中、後方から来たスノーボーダーに追突され、下半身を強打し、睾丸の皮膚が切れ、血尿が出た為、長野県の病院に搬送され、処置されました。

その際尿道が損傷し、このことからカテーテルと通せ、損傷部が回復したのを、カテーテルを抜き「狭窄がなおおぼろげに拡張する処置がわかる」との話をされるが、正直この時、先生の方は、樂觀的な物言いがおありでしたし、今後回復が良くなるのか、可能性については話がおありませんでした。

この病院で数日入院したのち、

地元、栃木県の病院にて尿道の傷がふさいだ後カテーテルを抜きましたが、たしか何日後には、尿が出にくくなり、病院でフジという尿道の拡張術を行いました。

これも本当に激痛があり、非常に苦しみました。

この処置後、たしかに尿の出方は良くなりましたが1~2週間後にはまた出にくくなります。そして、病院にいくと、フジで拡張しにくく返しを数ヶ月行い、治す。その後、尿道の狭窄部分を削る手術で

カテーテルの径が大きい物を挿入して拡張する処置「メカス・スタント」という金属の筒状の物を狭窄部だけに挿入し、長期留置後に取り出す事を順番は忘れたのですが、結果ダメでした。

上記の処置で2年間を費やしました。

その間は尿が出ない痛、フジの痛み、カテーテルを入れた時の生活、仕事、社会も長期で休んだり、この症状の認知度が低く、理解されず、苦しむ。このまま一生続くのでは、と非常に不安がありました。

## ② 防衛医大受診から入院手術退院までの生活について

尿道狭窄症の尿道形成術は、堀口明男先生のホームページを偶然見つけたが、自分では一見難しそうだが、怖かたのと1ヶ月ぐらいの入院となるので、敬遠してしまいが、会社の上司の後押しもあり、受診と決意しました。

尿道形成術に関して直接先生から説明され、恐怖心が少し、無くなりました。この手術を受けようと思えました。

私の手術は狭窄部が少し長かた(2)為、狭窄部を切り、

口内の皮膚(3)粘膜(3)をそこに移植する方法を取りました。

狭窄部が短かければ、狭窄部を切除し、尿道を繋ぎ合わせる方法が少し負担の軽い手術だったようである。

一番ショウアップなのは、ブジー等の処置で患部が痛めつくと、狭窄部が長くなる可能性のお話を聞いた時でした。

手術後の入院中カテーテルをしばらく入れようとしたが、今日までと決めたのか、そんなにつらくはありませんでした。(口内の皮膚が何とまではつらかったです)

又、私と同様の症状や同じ様に苦しい期間を経た。この病院に来た方々もいる。私よりずっと長期間で、おと遠い所から来た。その話を聞き、改めて、この症状の認知度の低さと治療方法が定着してない事と思えました。

## ③ 退院後の経過

退院後は良好で排尿はほぼ問題ありません。若干尿道に尿が残る症状はありますが、私の場合は口内の皮膚を切った所は、7割りは残りますが、慣れました。

④ これから治療を受ける患者さんへ

皆さんの中には、何かを知らずにこの尿道狭窄の病を知り、深刻な  
程度に陥った、フジ-処置で通ることになった方もいらっしゃる。  
直ぐに、くり返し同様の処置が必要になる危険性があるため、  
そうなる前に、早く尿道形成術の情報を得て、相談してほしいと  
願っています。